平成　28　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0473100469		
法人名	特定非営利活動法人よつば荘		
事業所名	グループホーム よつば荘　　ユニット名 1ユニット		
所在地	遠田郡美里町北浦一丁目59番地		
自己評価作成日	平成 28 年 11 月 7 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4－2－8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 28 年 11 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

季節感のある料理の提供と利用者様への対応が密で
ひとりひとりにあったケアをしている。
又　一ヶ月に一回のスマイルカフェを開き地域の交流に力を入れている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

JR小牛田駅近くの川沿いにホームがある。1階は定員6名のグループホームで、2階は同法人が運営する宅老所がある。地域の夏まつりへの参加やスマイルカフェの開催等で、地域との交流を深めている。昨年見直した「ゆっくり、ゆたかに、ゆかいに」の理念をことしも実践している。入居者や職員から「お母さん」と呼ばれる管理者を中心に、家のように居心地よく、気を遣わずに何でも言い合える関係を築けていることが職員の自慢である。入居者一人ひとりをよく知り、「その人らしい生活」が継続できるよう支援している。昨年の目標達成計画の取り組みがなかった。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名　特定非営利活動法人よつば荘　　)「ユニット名

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆で意義や役割を考えながら造っている	昨年、理念を見直した。ゆったりした環境で本人のペースで愉快に生活できるよう支援している。管理者と職員は、ミーティング時に実践できているか振り返り、ケアに活かせるよう意識している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出　スマイルカフェなど近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	ホームの夏祭りや芋煮会に地域の方を招待している。毎月1回開催するスマイルカフェには、7～8名の地域の方の参加があり、住職の説法などを聞いている。日曜朝市に出掛け地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出　スマイルカフェなど近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域のボランティア活動の協力を得て取り組んでいる	町や地域包括の職員、行政区長などが出席し、2ヵ月に1回開催する。ホームの状況、行事の予定や実施結果を資料にまとめ、会議で報告している。行事の企画や災害時の協力体制などの話し合いがあった。	会議資料に出席者をメモし、保管しているが、話し合った内容の記録がないのは残念である。会議録を作成し、そこでの意見をサービス向上に活かしていただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者に対し、事業所の考え方や、運営や現場の実情等を伝える機会をつくり、直面している課題解決に向けた話し合いを行いる。	町の担当者にホームの実情を伝え、入居者増、防火設備等の課題を相談している。ホームの移転計画では、必要な手続きや申請時期等の助言を得て、検討をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員で、身体拘束の内容を把握し、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	「自分がされて嫌なことはしない」ことを意識してケアしている。行動制限をせずに生活するリスクを家族に説明し、理解を得ている。ベッドから落ちる恐れがある入居者には、畳を敷き、布団に変える等、拘束をしないケアを実践している。	身体拘束防止の研修がなされていない。介護保険で禁止されている行為や拘束の弊害を学び、身体拘束ゼロの取り組みを推進していただきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者や職員全員で、マニュアルに沿い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員全員で、日常業務のなかで行っていますがマニュアルは作成しておりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際十分に行っています。状況変化の際にも十分に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員全員で、要望を受け入れ十分に行っている。	本人や家族から意見・要望を引き出すよう努めている。入居者に関する健康や暮らし、終末期のケア等の要望を「施設介護支援経過」に記録し、ケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを行い職員の提案を取り入れ行っている。	痰吸引器の購入やミーティング開催日を全員が参加できるカフェの日に変更する等、職員の意見・要望が反映されている。外出行事、スマイルカフェで実施する内容は、職員の話し合いで決めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況、利用者さんへの対応等を常に把握、向上心が持てるよう意見を反映し行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの実際と力量を把握し、研修等の機会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	検討中でありまだしていない。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する際に、十分に行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する際に、十分に行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等の状況等を含め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員全員で自分も楽しめるｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑを目指しているので家族のように思っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	よつば新聞や行事の参加を通して共に本人を支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や同級生の面会があったり　朝市に出かけ 知人との関係が途切れないようにしている	かつて家族と行った駅前の朝市に職員と出掛け、知人との出会いを楽しんでいる方がいる。家族と洋服を買いに行ったり、ドライブする方もいる。個々の生活歴や人間関係を把握し、関係継続に配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝食後、夕食後の団欒にて話し合いをもったりして　支え合えるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ｽｰﾊﾟｰでの買い物で、家族と出会う時がある。 様子を聞いたり、困っている事を聞いて経過をﾌｫﾛｰしている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴を中心にその人の思いを知る	普段は「ここに来て良かった」という方でも、入浴などの1対1の時に「家に帰りたい」という思いを聞くことがある。職員は、本音が言える信頼関係が一番大切と考え、入居者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	認知症状は、生活歴が深く関係している。 基本情報を作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	主に午前中に機能訓練をしている 週間予定表をホワイトﾎﾞｰﾄﾞに書いている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	CMを中心に話し合いをし、意見交換している	本人、家族と関係者で話し合い、長期・短期目標と支援内容が作成されている。車イスへの移動、排泄等を促し、ラジオ体操などで上肢、下肢の筋力を無理なく鍛えることを盛り込み、自立歩行ができるまでに改善した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はまだ充実していない 課題である		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事例は、今までにないが取り組んでいる		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外食、リンゴ狩り、カラオケ、歴史館等楽しむ		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受けられる様に支援している	協力医は、夜間・休日の診療体制があり職員同行で受診している。穂波の郷クリニックは、月1回の訪問診療と看取り対応がある。受診結果は、記録し職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤で居る		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との協働はしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り支援を行っている	早い段階から終末期の対応指針を本人・家族へ説明する。重度化した時期に再度話し合い同意書を取り交わしている。職員は、外部研修に参加して看取りケアを学んでいる。現在、管理者（看護師）が中心となって看取りを支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練は行っていないが 看護師に直ちに連絡する		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練はしている	夜間に炊事場から出火を想定し、避難訓練をした。避難にかかった時間は、入居者2名と同じ建物の宅老所の4名で約10分かかった。地域住民の防災体制の協力が望まれる。訓練記録をお願いしたい。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時々、居室を訪室し人格を尊重し誇りやﾌﾟﾗｲﾊﾞｼｰを損ねない言葉かけをしている	居室を訪問する時は、必ずドアをノックし、本人の了解を得て入室することを職員同士で確認しあっている。声を掛けるときは、その人のプライドや特徴を把握して「さん」付や慣れ親しんだ言葉がけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ、その人らしい暮らしができるよう 希望に添って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域との交流が深まってくると身だしなみに気を付けるようになってきた		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しんで食べれるように支援している	地域の方からいただいた旬の野菜をみて、その日の朝に献立を決めている。食事の支度や片付けは、入居者と職員が一緒に行い、同じ食卓を囲んで食事をしている。誕生日や外出時の外食は、楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は毎日記載している。その人にあった 水分量を把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ｹｱは、朝　夕　行っている 航空体操は毎日行っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立に向けた支援は行っている	ムズムズし始める等の排泄前のサインを把握し、声掛けする。入居時半身麻痺だった方が自力で排泄できるようになった。トイレでの排泄の継続、自力でトイレに行こうとする本人の意欲と頑張りで達成できた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のﾁｪｯｸを行い、その人にあった働きかけを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に添った支援を努力しているが　課題である	週に2回入浴している。その人が出来ることを把握し、出来ないことを支援している。入浴時は家族や楽しかった話が聞け、入居者と職員の心を通わす大切な場となっている。入浴回数を増やす努力をしていただきたい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼　夜逆転だったりする人がいる時は、他の人達に迷惑が掛かる日中の過ごし方を工夫している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳をもとに理解している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の後片付け　体操の声掛け等 役割がある		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や地域の人々と協力しながら行えるよう 努力していく	日常的に近隣の公園を散歩する。体が動かせない方も五感刺激のため、車イスで近所に出掛ける。定期的なドライブや個々の要望に沿った外出をしている。入居者が通う民謡教室の発表会が鳴子で開催された時は、職員同行で教室仲間と一緒に参加した。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物ツアーを企画している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気の入れ替え　季節の花や壁掛けなど工夫している	入居者が作成した紙皿アート（ちぎり絵）やカラオケ店でのカラオケ大会、スマイルカフェ、フラワーセラピー等の写真が飾られていた。居間は換気も良く適温が保たれている。非常口のスロープは緩やかで、車いすでも安全に通れる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の居室での団欒など工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ﾀｰﾌﾞﾙ　ﾀﾝｽ　時計等工夫している	居室は、エアコン、ベッドが備え付けられている。室内には、家族の手紙や写真が壁に飾られ、動きやすいように生活用品や衣類整理箱などを配置している。掃除は、入居者と職員が協力して行い、清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの使用　Pトイレの設置場所の工夫等行っている		